

海外へ出かけるその前に

渡航先での安全対策



2005年に海外へ渡航した日本人は約1,740万人。海外渡航者が増加に伴い、渡航先で日本人が犯罪や災害、テロなどの危険に遭遇するケースも増えていきます。渡航先でのさまざまなリスクに備え、事前に外務省の海外安全ホームページなどで現地の情報を確認し、楽しい旅行にするために安全対策を心掛けましょう。

海外で事故や事件に巻き込まれる日本人が増加

近年、観光や留学、ビジネスなどさまざまな目的により海外に出かける日本人が増えるにつれ、渡航先で日本人が事件や事故に巻き込まれたり、現地の法律に違反して逮捕されたりするケースも多くなっています。

外務省の「2005年海外邦人援護統計」によると、海外に渡航した日本人が事故、犯罪被害、犯罪加害、病気などのトラブルにより、何らかの形で日本大使館・総領事館の援護、支援を受けた事例は15,955件、19,503人に上ります。海外でのトラブル防止のため

めには、渡航先の事情や治安状況などの「情報」を集め、その国の文化や習慣などの「知識」を習得し、自分の身は自分で守る「意識」をもつことが大切です。

「自分の身は自分で守る」意識をもつ

日本は、世界の中でも治安がよいとされる国です。多くの日本人は、それが普通であり、当たり前だと思っただけです。そのため、海外で日本にいたのと同じ感覚で行動すると、予想もしない事故や事件に遭う可能性が高くなります。海外旅行の際には、気持ちを海外モードに切り替え、危険はいつ、どこにでもあること

を認識して、自分の身は自分で守るために気を引き締めなくてはなりません。海外で皆さんが「自分の身は自分で守る」ための心構えを次に挙げます。

危険な場所には近づかない
まず、渡航先として、内乱、テロ事件などにより政治・治安が不安定で外務省より渡航のための危険情報が発出されている国や地域など「危険な場所」への渡航は慎重に検討してください。

また、強盗などの凶悪犯罪が多発している場所には近づかないようにしましょう。安全と思われる国や地域でも、特定の地域や時間帯によっては「危険な場所」になること

があるので注意が必要です。夜間の外出や人気のない場所での一人歩きを控えるのも重要です。

多額の現金や貴重品を

持ち歩かない

「お金持ちで不用心」というイメージを持たれている日本人。そのため、海外の観光スポットなどでは、日本人旅行者をターゲットにしたスリや置き引きが多発しています。万が一の場合にも最小限の被害ですむよう、トラベラーズチェックやクレジットカード（ ）を使用するなど、外出時には多額の現金や貴重品は持ち歩かず、ホテルのセーフティーボックスに預けましょう。注意：クレジットカードについては、悪用されることもありますので、注意が必要です。

見知らぬ人を

無条件に信用しない

海外旅行は、ふだん接することのない国の人々とコミュニケーションをとることのできるよい機会です。しかし残念ながら、不用心な日本人は詐欺のターゲットとされることが多いのも事実です。特に

個人で旅行をする若者が、「いかさま賭博詐欺」や「睡眠薬強盗」などの被害に遭ってしまつて例が少なくありません。見知らぬ人から親しげに声をかけられても、安易に信用してついていかないようにしましょう。

生命の安全を第一に

十分に注意をしても犯罪に巻き込まれることがあります。海外では凶器を所持する犯罪者も少なくなく、犯人の要求に応じないとその凶器を使用され、生命にかかわる被害に発展する可能性が高くなります。何よりも生命の安全が第一です。万一、犯罪に遭った場合、金品を要求される限りにおいては、犯人に抵抗しないようにしましょう。

買い物は信用のおける店でショッピングを海外旅行の目的の一つとしている人も多いでしょう。しかし、海外で購入した品物について、帰国後にクレームをつけたり、弁済を求めたりするのは容易ではありません。このような事情を利用し、外国人旅行者に粗悪なものを高く売りつけたり、クレジットカードを悪用した